

国語

出典

シン・ヒーキョン「デザインを教えることはできるのか——デザイン基礎教育について」(『デザインに哲学は必要か』武蔵野美術大学出版局)

解答

- 問1 A—③ B—③ C—⑤ D—① E—④
問2 ④

問3 ④

問4 ⑤

問5 ③

問6 ① I—② II—④ III—② IV—③ (2)—④

問7 ②

問8 ③

解説

問2 傍線部Aを含む一文とその前の一文に「最近の傾向では」「デザイン生産者が何かをデザインし、その実践行為が人工物の形態を作り、その形態が消費者に伝達され、また消費者の反応が次のデザイン物の結果に影響を与える」という「複合的な現象だと定義される」とあることから、④が答えである。

問3 傍線部Iを含む段落に「……といった対立概念群を基礎としてデザイン概念が成立するようになった」「……など、我々の想像が許すかぎりの数多くの問題系と、相互に対立する諸理念が、デザインという概念のうちに溶け込んでいる」とあることから、④が答えである。

問4 傍線部Uを含む段落に「デザインもまた、固定された意味での普遍的なものではなく」「デザインの成果物は、社会・文化的コンテクストにより実体化・具現化されたもの」「我々は、その成果物を通じて、その当時の社会・文化状況を知ることができる」とあることから、⑤が答えである。

問5 傍線部エの直後に「『道具としてのデザイン』が原始時代に存在したように、いま現在においても、インターネットをはじめとしたあらゆる場において、自分たちの生活と環境を美しくかつ新たに形成するために、

一般の人々がデザインに参加している」とあることから③が答えである。
⑤は「使用者主体のものへと変化している」が不適当。「ドウヨウしている」とあるが、完全に變化したわけではない。

問7 傍線部力を含む段落の次の段落に「デザイン過程に使用者が参加することにより、使用者とデザイナーがともに同等な主体となって共同してデザインを行う」とあることから、アは適当。同段落に「デザイナーが取り組む問題」について「使用者とのコミュニケーションを通じてその多くが納得する案を提示する」とあり、エも適当である。よって、②が答えである。イは前半はよいが後半が不適切。ウは前半が不適切。解放されるのは「人間であれば誰もがソナえている普遍的なデザイン能力」であって、「有能なデザイナーだけが持つとされたデザイン能力」ではない。オとカは主体が市民かデザイナーかのどちらかに偏っているので不適切。

問8 ①は「デザイン教育は国民にとって重要な関心事」、②は「学校教育において、図画工作や美術の勉強をもっと充実させていこう」、④は「デザイナーになるためにはマルチな能力を養う必要がある」、⑤は「デザインの定義をはっきりさせてからでないと、デザイン教育の強化方針が見えてこない」がそれぞれ不適当。

二

出典

澤田瞳子『輝山』／第五章 たたずむはまつ／(徳間書店)

解答

- 問1 A—③ B—⑤ C—① D—④ E—②
問2 ④

問3 ⑤

問4 ⑤

問5 ①

問6 ②

問7 ④

問8 A—② B—② C—② D—① E—① F—②

解説

問2 傍線部Aの次の観応の発言「子を己の羽交いの下に抱え込もうとするは……世の中に歩み出させてやらねばならぬ」から、④が答えである。

問3 満寿の姿が見えなくなるやいなや、観応は「お、おぬしは何を考え

ておるのじゃ。銭をいただき、問歩を営むなぞ」と叱りつけていることから、④か⑤が答えであるが、傍線部イは、思いがけない出来事に、慌てふためくという意味の「狼狽」であることから、④の「怒りに震えた」ではなく、⑤の「栄久を止めなければならないと思ったから」が答えである。

問4 波線部(a)の直後に「唇を震わせた」、波線部(b)の発言の前に「その銭は怪我を負った朋友のために入り用なのですか」、波線部(b)の直前に「赦の刻まれた目元を和ませた」とあることから、⑤が答えである。

問6 傍線部ウに「吐き捨てる叡応」「栄久はひょいと土間に飛び下りた」、二重傍線部Dの少し前に「馬鹿をぬかせッ。わしは山師にするために、これまでおぬしの面倒を見てきたわけではないぞ」、傍線部エの前に「叡応が眉を吊り上げる。はいはい、とそれを受け流しながら」とあることから、②が答えである。

問8 ①満寿が現在京で豊かな生活をしていることは推測できるが、正覺寺に預けられた経緯はわからないので前半は適当でない。②確信があったかどうかはわからない。③栄久を叱りつける様子からは「世俗を超越した高德の僧」とはいえない。④・⑤金吾と栄久の人物描写として、それぞれ適切である。⑥「悲壮な決意」「過酷な日々」が不適切。

一般選抜(統一地区)：1月27日実施分

問題編

試験科目・配点

学部・学科等	教科	科目	配点
児童学部	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
栄養学部	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から2科目選択*	各100点
家政学部	実技	外国語	100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、日本史B、「数学Ⅰ・A」、化学基礎、生物基礎、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から1科目選択	100点
文学部	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から1科目選択	100点
	選択	「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」、「国語総合(古文・漢文を除く)・現代文B」から1科目選択	100点